



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 151 Oct. 1. 2017

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



東海支部登山学校開校式と開会の挨拶をする高橋学校長(右上)

目次

○東海支部登山学校開校	今津英一朗	2	○同好会コーナー		
			古道塩の道	山中光子	13
○第11回日中韓学生登山交流会	福田隆浩	4	スケッチクラブ	村中征也	
○山の日2017活動報告	佐野忠則	6	○委員会報告		
○東海支部俳壇		6	ボランティア	前田隆久	14
			自然保護	井藤恵美子	
○東海岳人列伝(7)	西山秀夫	7	○会務報告		毛利邦男 15
○東海支部の蔵書からの一冊⑬	石田文男	9	○ルーム日誌・会員異動		毛利邦男 16
○支部友コーナー	田中 進	12	○INFORMATION		16
			○編集後記	星 一男	17

東海支部の登山学校開校

登山学校運営委員会・事務局 今津英一朗

登山教室委員会で、約2年前から討議されてきた登山学校が4月によりやくスタートした。公益社団法人の活動として、約25年程、朝日・中日・県の労働協会等のカルチャー教室で登山教室を行なってきたが、社会情勢の変化などもあり、支部が主体となり活動することになった。運営委員会の委員長は、天野登山教室委員長が兼務する。また、学校長には高橋支部長が就任した。

1. 登山学校の概要

①募集対象

- ・これから山登りを始めようとしている方(年齢問わず)
- ・山には登っているが、さらにレベルアップを目指している方(経験問わず)

②開校期間 毎年7月からの1年間

③講座回数 月1～2回の、座学(机上講習)と実地山行(現地講習)

申し込み者の希望レベルにより3グループに振り分けられ、各教室(グループ)のリーダーの下、今後平成30年7月まで活動に取り組む。(現地学習12回、机上講習4回を予定)

④開校場所 東海支部ルーム

2. 各教室の構成

①チャレンジ教室(初級) 1A～G(7班)

これから山登りにチャレンジしようと思っ
ている方。ハイキングから、1泊2日の山小屋
登山まで。

②レベルアップ教室(中級) 2A～F(6班)

登山の経験はあるが、体系的に、登山を学び、
山登りをしたい方。

③ステップアップ教室(上級) 3A(1班)

ある程度の経験者で、さらなる技術習得がし
たい方。



説明会・開校式で説明する天野委員長

・班の構成は7～8名とし、チャレンジ教室(初級)は登山未経験者を対象に行うクラスで、安全安心な登山を行えるよう各自が自立できることを目標にしている。レベルアップ教室(中級)は経験者を対象に、体系的な登山技術・レスキュー技術等の習得、テント山行、低山での雪山体験まで。ステップアップ教室(上級)は、初歩の岩登り技術、雪山技術の習得、無雪期の長期縦走などを行う予定である。開校式から各クラスのスタート状況は以下に述べる。

3. 開校式



開校式の様子

7月1日(土) 10時AMより、OMCビル4Fにて開校式があり、71名の一般申し込み者が入校した。また、既存の支部員・支部友員からも申し込みがあり、総勢は85名となった。さらに9月3日には、追加申込みの方へ



挨拶する高橋学校長

の説明会と入校式を行い、総勢93名となり、支部側の受け入れ態勢も、講師の追加等を行って対応し、総勢33名で始まった。

最初に高橋校長の開会挨拶があり、推進役である尾上委員より、日本山岳会(JAC)についてと登山学校の概要ならびに入会メリットの説明が行われ、その後、各教室別に具体的な説明を行った。



尾上委員より説明



各教室別の説明

4. 各教室のスタート状況

チャレンジ教室(初級)は、A～Gまでの7班でスタートし、富士見台など山行が行われた。



富士見台頂上にて

レベルアップ教室(中級)は、A～Fまでの6班でスタートし、現地山行は、焼岳、恵那山、西穂(丸山)などを実施した。



レベルアップ2E班(8月山行写真恵那山山頂)

ステップアップ教室(上級)は、1クラス8名でスタートした。

8月20日(日)に愛知川遡行、9月2日(土)～3日(日)に北アルプス・西穂高岳の山行を行い、幸いにも好天に恵まれ、順調な滑り出しとなった。

参加者の不安を取り除くために、講師陣との顔合わせを兼ねた説明会を山行前に開き、登山の概要・必要装備の説明と質疑応答の場を設けた。講師陣としても、事前に問題点を把握することは必須の事であり、今後も継続して行くこととする。



快晴の西穂高岳山頂にて

第11回日中韓学生登山交流会

東海学生山岳連盟 福田隆浩

1日目(8月7日)

釜山空港への直行便に搭乗するため、中部国際空港に向かうも、台風の影響により欠航となる。同便に搭乗する予定だった喜田 陸君(南山大学)及び高野しょうじ君(南山大学)と他の直行便や乗り継ぎ、他の空港へ移動するなどを模索するも満席や欠航ばかりでした。結局、セントレア(中部国際空港)にとどまり、明日空席になるかもしれない仁川行きの便を待ち、空港泊をすることにした。その夜は、韓国で行われている歓迎会と明日(8/8)の山行に参加できないことを後悔しつつ、早くに便や空港の変更をできなかったのかを反省しながら就寝した。



エアポートビバーク地点

2日目(8月8日)

朝、航空会社から仁川行きの便の席が空いたと連絡が入り、早速その便で仁川に向かい、国内線で釜山空港に入ることにした。乗り継ぎの時間がかかりあったため、日本を午前中に出るも、釜山空港に着いたのは夕方となってしまった。空港に着いてからは韓国スタッフの誘導があり、無事に本隊と合流でき、その日の夕食は、現地で食べることができた。

その後、ホテルに移りルームメイトのSu1君(韓国)、Yang君(中国)、Chen君(中国)と拙い英語ながらもジェスチャーを交えながらコミュニケーションを取り、仲良くなった。また、その晩からほぼ毎晩、学生だけの宴会に参加し、ルームメイト以外の学生とも仲良くなった。



その日の晩ご飯、キムチは欠かせない

3日目(8月9日)

この日は蔚山の観光を行った。初めは現代自動車株式会社の工場見学だった。一時はストライキの不安があったものの、難なく見学でき、現代自動車(株)の文化会館では現代自動車(株)の歴史や歴代の車両を知る事ができた。その後、会社内にあるクライミングクラブに案内され、ボルダーを登らせていただいた。東海大学にもボルダーが欲しいものである。

次は、蔚山大橋展望台と大王岩という磯の大岩を巡った。特に展望台からは蔚山市内や港が一望でき、所属する専攻(海洋機械工学)的に、造船所には非常に興味があり、隈なく見たのを鮮明に覚えている。

最後には、登山用品店にて買い物を行った。特別に安く売ってくれたが、あまり換金を行っておらず、欲しいものが買えなかったのが残念だった。



現代自動車のボルダー 写真の反対側にも壁あり

4日目(8月10日)

この日は嶺南アルプスの肝月山(1069m)と神仏山(1159m)への登山だった。生憎の天気となり、ガスと雨に見舞われ、ほとんど周りの景色が見えなかった。山の植生や外観は同じ高さの日本の山とほとんど変わらないように思えた。肝月峠においては蔚山テレビ局による取材があり、日本隊の学生リーダーである澤井丈典君(南山大学)がインタビューを受けていた。



月肝峠直前 テレビ局が待っていた

5日目(8月11日)

嶺南アルプス複合ウェルカムセンターにて、映画鑑賞とボルダリング、フリークライミングを行った。映画鑑賞では海外の山岳映画を鑑賞し、映画館の隣にある人工壁にてクライミングを行ったが、午前中のボルダリングで腕が張ってしまい、午後のフリークライミングはほとんど登ることができなかった。登攀レベルが低いことも浮き彫りとなり、ジムに通うことを考えなければならなかった。



壁前で集合写真

6日目(8月12日)

この日から最終日まで再び観光メインとな



はるか向こうに日本、長絶岬より自由に昼食や買い物をした。さらに蔚山の伝統的焼き物であるオンギの壺へ記念の彫刻とコップの絵付け、オンギ博物館・村の見学があった。夕方、長絶岬よりサンセットを見たが、向こうに日本があると思うと少し里心がついてしまった。

っていき、この日は蔚州岩刻画とその博物館の見学、太和江公園の十里竹林散策、市街で



海雲台ビーチ

台ビーチで海水浴をしたり、世界最大のデパート「センタムシティ」で買い物をして非常に楽しい時間を過ごした。

8日目(8月14日)

帰国日とあって学生の皆の顔が少し曇っているように思われた。見送りに来てくれた韓国隊や途中で別れた中国隊の中には感極まって泣く方もいた。さよなら。そして、ありがとう。よい経験と思い出ができました。来年もぜひ参加したい。



釜山空港にて見送り

「山の日 2017」 東海支部の活動報告

山の日事業本部 佐野忠則

山の日活動について、昨年は大きなイベントの開催も視野に入れていろいろと模索しましたが、当面、地に足の着いた活動から始めることとし、昨年の御在所山頂に加えて新たに愛知・長野県境の豊根村にある茶臼山(1415m)で活動を行うこととしました。豊根村は人口1100人で全国的に見てもたいへん小さい村の一つですが、村長さん以下、村おこしには大変熱心で茶臼山でのイベントを通年で開催したり、担当課長が旅行社を巡回し集客ツアーを御願するなどして、昨年は年間で78万人の実績があり、山の日8月11日にも独自のイベントを開催し、1万人ほどの動員が出来たとのことです。本年は東海支部でも、抽選会で関係者の関心を集めつつ、チラシなどを使って「山の日」活動を行ないました。抽選会の景品は支部所属の会員の会社や豊根村からのグッズ提供などで必要な個数を集めることが出来ました。当日の参加者の実態を見ると高校生以下の人数が半数近くを占め、か



茶臼山東海支部コーナー

なり参加者が若いのが驚きでした。付き添いの親たちを対象に周知活動を行うこととし、想定以上の人たちに「山の日」の話が出来ました。ただ、周辺地域は雨で、集客は昨年の1/3程度でした。一方、昨年同様、御在所山頂でも、抽選会とその横では、高橋支部長による山登りなどの注意喚起の講演などで「山の日」の周知を図りました。御在所ロープウェイ会社も山の日記念イベントを山頂広場で実施し、一体となって大勢の登山者に「山の日」をアピールしました。

東海支部俳壇

山蕩児 心酔

夏カムチャツカに遊ぶ

夏霧にかすむ頂アバチャ山

アバチャ山、二七一四米。

カムチャツカ半島南部に位置する。

滔々の岸辺にひぐま草を喰み

ビストライヤ川をゴムボートで下る。

目の前に熊の親子が、草を喰んでいた。

繚乱をリス我が物顔にはしり

リスII地面に巣穴を掘る地リス

アバチャ山歩む足下のチングルマ

高山植物の咲き乱れるお花畑の中が道。

果てしなき緑の大地カムチャツカ

日本の自然は、箱庭的。

竿しなりルアーに跳舞巨岩魚

借りた釣り竿には、シマノ、

ルアーには、がまかつとあった。

雪残る夏野に凄まじ轍かな

軍用を改造した六輪駆動車で

道なき原野を走破。

ひとり言つ言えぬ思いや

イワギキョウ

西山秀夫
手には汗垂直の壁登攀す

万緑のいづくに隠れたまひしや

7月1日 猿投山で行方不明の

青山秀樹さんを探索

草いきれいつまで続く探索行

夏草や道なき道を探索す

7月3日 猿投山探索で東大演習

林内の沢と尾根

塩味の心づくしの胡瓜食ふ

7月9日 猿投山探索で青山氏の

家族からいただく

ねじ花と知る人もなき山の道

わがふぐり食ひつくぐダニの

二ミリほど

7月14日 東大演習林探索

てがかりのなき探索やホトトギス

7月15日 猿投山探索

蜘蛛の巣にからまれつつも

尾根を行く

雲の峰鳥居の上の恵那高し

恵那神社

緑陰や胞を洗ひし池の跡

血洗池

人の手の届かぬ岨に岨花咲く

宇連山の瀬戸岩で

産卵の岩魚や澄みし水に棲む

木曾の沢で

東海岳人列伝(7)

～ヒマラヤに殉じた登山家・加藤幸彦～

編集委員会 西山秀夫

信長に通じる加藤の登山哲学

加藤幸彦は支部創立を待ちかねていたような早熟型の登山家だった。一つ一つの登山に対する評価はできないので割愛する。

ただ言えることはヒマラヤが大好きだったのだ。ヒマラヤに登りたいがために、高卒で中小の商社へ入社している。一時期のブランクはあったが晩年もヒマラヤに行った。生涯を神々の山に捧げたのだ。以下に加藤幸彦氏の軌跡を列記した。

1948年(16歳)…東海高校入学と同時に山岳部に入部。

1953年(20歳)…名古屋山岳会に入会。

1960年(27歳)…ジュガールヒマラヤ遠征隊に参加、マディアピーク(6,900m)に初登頂。

1964年(31歳)…ギャチュンカン遠征隊に参加、未踏峰ギャチュンカン(7,922m)に初登頂。

1967年(34歳)…ペルーアンデス・サルカントイ遠征隊隊長としてサルカントイ南稜など初登頂。

1970年(37歳)…日本エベレストスキー遠征隊の登山隊長として参加、三浦雄一郎の「エベレスト大滑降」を支援。スキー探検隊のメンバーは石原慎太郎/三浦雄一郎/藤島泰輔/加藤幸彦/安間荘 語り手 芥川隆行という豪華なものでした。滑降ルートをあらかじめトレースしておき、危険箇所を回避する命がけの任務だったそうだ。

1992年(59歳)…カナダに永住を決意。カナダ西部BC州の小都市ケローナ市に在住していたらしいが、トレーラーと促聞した。

1993年(60歳)…アリューシャン列島登山自然調査遠征隊隊長として参加、未踏峰イサノトスキーなど初登頂。

2002年(69歳)…チョーオユー峰(8201m)に三浦雄一郎氏等と共に登頂。ヒマラヤからアルプス、アンデス、アリューシャン列島、チベットまで数々の登頂を無事故で実現。

『絶対に死なない 最強の登山家の生き方』



加藤幸彦氏の著書

講談社)という著書も残した。書名は出版社側がつけていて自分は気に入らないようだったが、編集者は加藤の本質を見抜いていた。だから書名も加藤らしい側面がある。本書には加藤の哲学はいくつも語られるが、登山のタクティクスにおいて過去の成功に溺れず、忘れることにしていた、というのだ。その都度戦略を考えて経験にたよって漠然とした挑戦をしない強い意思である。

信長の名言で検索すると「信長の天才たるゆえんは、伝統の権威などを無視しただけでない、自分のアイデアや戦法にさえ溺れず、それに固執しないところにある。」「信長が偉かったのは桶狭間のような戦い方は二度としなかった。少数で挑む戦いを二度としなかった。一度の成功体験に溺れなかった。」等々。天才には共通することがある。

東海支部草創期の群像で示す存在感

以下は『東海山岳11』の50年史からの抜粋である。

若者たちが口角泡を飛ばしていた話題は冬の岩壁登攀のことだった。話題の中心には名古屋山岳会の加藤幸彦がいた。

加藤は瀬戸市に生まれ、東海高校在学中から名古屋山岳会へ入会待ちをするような大の山好きだった。大学へは行かず、中小の貿易商社に入って誰よりも早く外国の事情に先んじていた。彼は東京で第二次R・C・Cが結成されたことに刺激を受けて、東海地方にもクライマーの集りを持つと呼びかけたのだった。

クライマー同志の情報交換、協力、研究等を行おうということになった。名称は当時の世界的なアルピニストの集りであるフランスのグループ・ド・オート・モンターニュをそのまま真似て、G・H・Mと仮称した。

メンバーは前園陽太郎(以下名古屋山岳会)、鈴木真吾、加藤幸彦、高田光政、高橋達雄(以下岐阜登高会)、青木寿、神谷恵文、二村嘉彦(名古屋ACC)、学生では名大の磯村思先だった。

ヒマラヤへ誘う石岡繁雄

その噂を聞きつけて会合に顔を出したのが当時屏風岩初登攀(昭和30年1月)で有名になっていた岩稜会会長の石岡繁雄だった。同じく名大に勤めていた石原国利(岩稜会5180)を伴って訪れたのである。このムンムンする熱気は何だ、と石岡は思っただろう。彼らを彼らのエネルギーを良い方向に向けさせたいと考えたに違いない。石岡は言った。「国内における登攀よりも近い将来、是非ヒマラヤへ遠征しよう」と呼びかけられた。この発言が契機となって、ヒマラヤが目標に変わっていった。

石岡の自宅がたまり場になり、登山論に花が開いた。自分が捨石になる覚悟で奔走したのである。G・H・Mは発展的に解消され、ヒマラヤ研究会の発足になった。昭和34年5月28日に第一回目の集會が行われた。昭和35年、東海地区山岳連盟で加藤、石原がビッグ・ホワイト・ピークに遠征したが一敗地にまみれた。帰国後、この反省から気心、技量も知れた仲間と行くべきだとの結論になった。山岳連盟は山岳会が単位の団体であるから個人として交流できる日本山岳会が良からうという流れになっていった。

昭和35年9月、日本山岳会本部へは石原国利、加藤幸彦、中世古隆司、原武、鈴木重彦、大口瑛司、須賀太郎、高橋達雄他8名が一度に入会した。この大量入会は本部の山崎安治(1919~1985、『日本登山史』)と石岡繁雄の推薦があった。東京の山崎と連絡を取り合い、東海地方在住の会員の意思を確認すると東海支部設立の賛意が得られた。

引用は以上。

どうだろう。加藤はまるで孵化してすぐに餌をついばむ鳥類のごとく思う。登山家としての本能が最初から備わっていた。群像の中でも一等地を抜いていたのだった。

加藤に学ぶ登山の教訓

彼の著作を読み返してみた。教訓的な言葉としてはP36の小見出し「臆病さが万全の策を呼ぶ」というのが目についた。

ある登攀で指を凍傷でやられた。この凍傷に懲りて万全の凍傷防止策を講じた。他人からは「臆病者」と笑われたそうだ。P38の文を引こう。

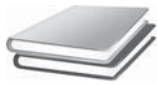
命ある限り、失敗は貴重な経験として次の機会に生かされる。しかし、「失敗に懲りる」という深い痛手を負わなければ、次もまた同じ失敗を繰り返さないとも限らない。慎重さの裏には臆病さが存在する。経験を積みれば積むほど臆病になる。その臆病さが常に最悪の事態を想定し、万全の対策を練り上げるのだ。

「危険は回避すべきものであり、困難は克服すべきもの」。これは私が幾多の登山経験から学んだ教訓である。ところが、体力の限界に達すると両者の区別がつきにくくなる。しかも危険な場所は一見たやすそうに見えるから要注意だ。疲労で頭がぼんやりすると判断はあいまいになり、体は楽な方へと流れてくなる。引用は以上

他人に笑われても、臆病者であれ、と自分に言い聞かせていた。笑っていた人は凍傷になったそうだ。

名古屋山岳会、日本山岳会、カナダ山岳会、日本山岳ガイド協会会員。カナダ西部のケローナ市でオカナガン・ジャパン・エンタープライゼズを経営。

加藤幸彦は書名の通り、山で死ぬことなく、病死した。1933年生、2011年7月死去。享年78歳。



東海支部の蔵書からの一冊⑬

図書委員会委員長 石田文男

『エーデルワイス・シリーズ1 〈山への愛と思索〉』

頁をパラパラやりパッと見開いた章から自由に興味をもって読むことが出来るのも良い。そして、つつい引き込まれるように読んでいる自分がある。それは今までの自分の山に重ね合わせ、またこれから登っていく山の夢に思いを馳せているからであろうか。

まず、大島亮吉の『山—随想と研究』の「断片」(抜粋)は、時を経て何度読み返しても新鮮味を覚える一節なのであげてみた。

《・インデアン・サンマアというような11月のある日を、僕は落葉松の林のなかの枯草のうえにねころんで、遠くの雪で光る山頂を眺めて空想していたい。

・ひとりで山を歩くものにとって、焚き火は最も無口で、しかも陽気な伴侶である。心さびしいときは火を燃やせ、その陽気な顔をみつめよ。

・道のありがたみを知っているものは、道のないところを歩いたものだけだ。

・嵐は登山者の厳格な教師だ。

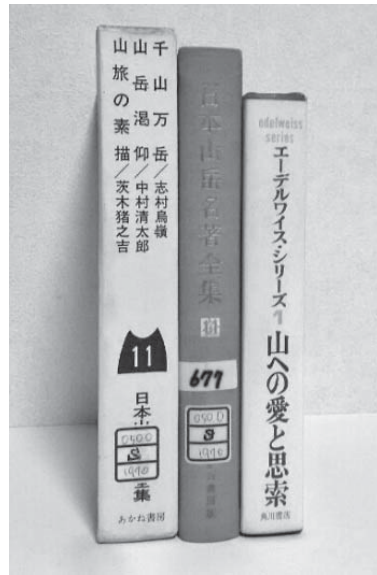
・雪消えにいちちやくあらわれた枯草の地。大地の早春の眼。

・尾根伝いに幾日も高いところを歩いていると、ほんとに水の流れている谷は恋しい。

・大きい岩壁。われわれのかんがえられぬほどの多くの年月を瞬間にして見せてくれる壁画。

・山では何をたべてもうまい。碧空と微風との甘味さえあれば。》

因みに、巻末の著者略歴「大島亮吉」には、《明治32年、東京に生まれる。慶大山岳会に在籍し北アルプス、北海道、上越国境、奥秩父、上信山地などに足跡をひろげ、特に穂高などの開拓登山で活躍し、達筆な文章によって登山界に大きな影響を与えたが、昭和3年、前穂高北尾根で転落、他界した》とある。著書『山—研究と随想』『先蹤者』は不朽の名著とされ、山の本を語る上ではいつも上位に挙げられている傑作である。さらに、谷川岳—ノ倉沢奥の岩壁群を紹介している。



ここで全6巻の内容を示している文を紹介して、能うことならこの1巻(シリーズ通して)を読んでもみる中から、自身の山登りが何であるのか、スタイルは何なのかなど、今後における指

針への思いを深めて貰えれば幸いに思うものである。

《本シリーズはガイドブックではなく、専門書でもない。山に関心のある人なら手に取って見たくなる広い意味での教養書であり、格調高い文章に美しいカラー写真を各所に配し、一流画家の挿し絵を盛った、見て楽しめる山の本。

(1)山を愛する人なら、まず山そのものの意味を考える。山は哲学につながっているからであろう。その人々に送る愛と思索のエッセイ。

(2)近代日本の山の詩を中心に、世界の詩をも広く集め、斬新な写真構成と相まって詩情を盛りあげた山の詩集。

(3)自然は恵み深い慈母であり、苛酷な魔神でもある。自然と人間が織りなすドラマは文学のつきせぬ泉である。名作が語る山の詩と真実。

(4)山は私たちにさまざまな楽しみをあたえてくれる。植物・動物など山の風物を機知に富んだ筆で綴った「自然との対話」篇。

(5)山旅は人の心にやすらぎをあたえてくれる。日本の名山を紹介しつつ、峠・高原・湖などワンダリングを主としたみずみずしい紀行集。

(6) 白銀の峰、そびえたつ黒い壁。人間を寄せつけぬ自然の厳しさに魅せられ、雪と岩に自らをためしたアルピニストの苦悩と試練の記録。》

この1巻の目次を見ると、《なぜ山に登るのか/ 山に登る理由 / ひとりの山 / 山に入る心/ 垂直と水平の道 / 涸沢の岩小屋のある夜のこと・・・》の思索的な文字がならび、次なる想いへの連想へと引きこまれ、つい頁を繰ってみたくなるから楽しい。

ここでこの1巻の末章「思索の周辺」から引用したい。《「登山とは何か」登山とは文字どおり山に登ることだが、この一見、単純な行為の意味はかならずしも単純ではない。

たとえば〈なぜ山に登るのか〉という問いがある。エベレストを初登頂したヒラリーが、同じくエベレストの先蹤者マロリーの言葉を借りて〈山がそこにあるからだ〉と答えたのは有名な話であるが、・・・有名になりすぎてしまった。・・・山に向かう自分のやむにやまれぬ気持ちを完全に言い表わせないもどかしさが、こういう苦し紛れな言葉を思いつかせたと・・・。わが国の登山の先覚者小暮理太郎にも〈私たちが山に登るのは、つまり山が好きだから登るのである。登らないではいられないから登るのである〉という言葉が・・・。山が好きだからと言っても、なぜ好きなのかを理解できない者には答えにならない。だが、好んで山登りをする人間には・・・もはや理屈を要しない抜きさしならぬ真実として、すっきりと胸にとおるのである。〈なぜ山に登るのか〉は登山がそう言う問題をつねに内にもつ行為だと言うこと、外面では肉体の運動でありながら、内面では精神の問題として思索しなければならぬ部分をもつということ、そこに登山の本質を受けもつ重要ななにかがある。そしてそれは、どこそこの山に登ったと言う事実よりも、もっと大切な登山の問題の一部なのである》。さらに、「困難と危険 / 孤独な対話 / 登山家の二つの顔」の小項へと続き、山に登る感性は・思索とは何かに引きずりこまれていく。

このあと、この続巻を蔵書紹介シリーズに取上げていくことになるのだが、それに先だって、この中の一冊を手にしてみることも、あながち無駄でなくこの秋、じっくりと〈山

が・・・〉への思いを巡らすことになるやも知れぬ。

昭和43年5月10日発行 214頁

『カラー版エーデルワイス・シリーズ』

(全6巻)

監修＝深田久弥・串田孫一・北杜夫

編集＝山口耀久

図書委員 石田文男

『日本山岳名著全集 11』(3巻所収)

「千山万岳」(志村烏嶺)、「山岳喝仰」(中村清太郎)、「山旅の素描」(茨木猪之吉)

この名著全集(11)に所収の3著者はすべて日本山岳会の先輩諸氏。

「山旅の素描」を選んだのは1970年発行で、全体が写真はすべてモノクロだ。山のみならず本書に挿入されている写真は、現在主流のカラー版ではまず景色に目がいきがちで味わえないものばかり、だから素朴なモノクロ写真に触れ落ち着いてページをめくる。

一番の興味は十代の頃から絵を描くために山に入り、山の絵だけではなく日常の暮らしの何気ない描写もおもしろい。

明治40年頃、絵画で入選等重ねていた時期、近所に住んでいた小島烏水と知り合いになり、誘われて南アルプスに入ったのが本格的な山登りの始まり。

絵画と登山とに精進し始め、40年になるような人はめったにいない。3年程小諸で生活し小学校に務めながら登山を楽しむ。はては学校を無断欠勤しての登山三昧。

のんびりと優雅な暮らしのようだが1月下旬に浅間山が爆発した時、その随員として参加。爆発直後、勿論アイゼン、ピッケルも無く、用意は防寒具と藁靴ぐらい。地表面は凍り、吹雪と北風に吹き捲られ足場をなくしてどうにも歩けない。滑ることおびただしい同行者が十間ほど滑る、お互いに顔の色が無かった。このように「凍てつく火山」で詳細に述べている。

小諸を出て木曾路より関西へと放浪の足跡を残す。日本の高山をほとんど訪れ作品を残しているにも拘わらず、厳しい山であろう所でもさらっと表現している。最後には岳人として、小暮理太郎氏、小島烏水氏等著名人の紹介文と素描がまとめられていてなかなか興

味深い。

残念ながら昭和19年10月2日、穂高・涸沢小屋より穂高岳を越して平湯に出る予定で出発、そのまま行方不明になり今日に至っている。

余談だが、妻を早くに亡くし4人の子供を育てながら画筆を握り、赤ん坊の世話や町への買い物、年のいかない嫁相手に苦勞したが、

本職の画と山は寸時も忘れた事はなく、余裕さえできれば西に東にとよく出掛けて行った。

1970年10月30日発行

監修：田部重治・尾崎喜八・深田久弥

発行：株式会社あかね書房

図書委員 山中光子

写真展作品募集のお知らせ

「第16回東海岳人写真展」で展示する作品を募集いたします。

この写真展は隔年開催していますが、毎回80点以上の作品を展示し、3,000人近い一般市民の方が鑑賞し、好評を頂いています。

日ごろの登山や山岳会の活動などの中で出会った美しい景色や感動した瞬間を写し撮った作品を奮ってご応募ください。題材は山だけでなく高山植物や動物、登山風景など山岳会らしい写真であれば制限はありません。

また、高級なカメラでなくともコンパクトデジカメやスマホで撮影した写真でも大丈夫です。自信のない方には、写真展実行委員が作品化のお手伝いを致しますので遠慮なくお申し出ください。猿投の森づくりの会員、東海 YOUTH、東海学生連盟などでまだ支部に参加していない方も応募頂けます。ぜひご応募ください。

記

1. 期 日：平成30年3月20日(火)～25日(日)
2. 会 場：名古屋市中区市民ギャラリー栄
3. 展示点数：80点以上目標
4. 作品体裁：全紙サイズ板パネル
5. 出品費用：13,000円(プリント、パネル制作込み)
6. 募集期間：11月15日(水)～1月15日(月)
7. 募集詳細：支部報今号に同封の「募集のお知らせ」「応募申込書」をご覧ください。
8. お問い合わせは下記実行委員まで。

実行委員長 井上寛之(14819) 副委員長 葛谷凱治(7261)

実行委員 (氏名あいうえお順)

蟹井れい子(15675) 熊谷美喜子(15109) 坂本孝(14519) 杉浦吉治(14094)

高松信治(15871) 武内喜代子(14628) 椿利枝子(15336) 中野八千代(13769)

蜂矢昭子(16014) 樋口悦子(12767) 増田千恵子(12768) 箕浦靖夫(8073)

山内薫(14320)

担当副支部長 山田明美(13421)



第15回東海岳人写真展の様子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画

(平成29年11月～平成30年1月分)

11月3日(金)☆

山域：木曾 山名：南木曾岳 (1,677m)

リーダー：村瀬恭平 締切：10月25日

11月11日(土)☆☆

山域：豊橋 山名：湖西連峰(神石山 325m)

リーダー：磯部 隆 締切：10月21日

11月18日(土)☆

山域：鈴鹿 山名：鈴鹿の上高地(995m)

リーダー：金谷正起 締切：10月28日

11月25日(土)☆

山域：関ヶ原 山名：小谷山(494.5m)

リーダー：田中 進 締切：11月5日

12月10日(日)☆☆

山域：鈴鹿山脈 山名：藤原岳 (1,140m)

リーダー：高松信治 締切：11月20日

12月16日(土)☆

山域：東三河

山名：五井山(454m)・宮路山(361m)

リーダー：川北一博 締切：11月27日

12月24日(日)☆

山域：鈴鹿 山名：油日岳(693m)

リーダー：今津英一郎 締切：12月3日

1月13日(土)☆

山域：尾張 山名：猿投山(629m)

リーダー：水野猛志 締切：12月24日

1月20日(土)☆☆

山域：西三河 山名：折平山(628.4m)

リーダー：金谷正起 締切：1月1日

1月28日(日)☆☆

山域：静岡 山名：満観峰(470m)

リーダー：今津英一郎 締切：1月5日

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、

- 各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- 締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- 支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- 山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

第27回「忘年会・新入会員歓迎会」

日時：12月12日(火) 19:00～21:00

場所：レストランリビエール(名古屋テレビ

塔西側) 中区錦3-15-11 セントヒサヤビル

10F TEL 052-971-1617 会費：3000円

登山学校で支部友会員になられた皆様はリーダーにお申し込みください。

支部友会員数

平成29年9月末現在 / 130名

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX: 052-832-3878

メール: onoe@onoe.co.jp

高松信治 携帯: 090-3156-5268

メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp

榊 将美 携帯: 090-7237-4410

メール: m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷正起 携帯: 090-9931-3600

メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

川北一博 携帯 090-3956-4123

メール: kawakitakazuhiro@outlook.com

村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876

メール: hoshizakari@ezweb.ne.jp

田中 進 携帯: 090-9191-8666

メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一郎 携帯 090-2616-7549

メール: imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯: 090-9180-7245

メール: takass@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯: 090-7859-4031

メール: yo-kom@nifty.com

水野猛志 携帯: 090-5866-3781

メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

個人山行も J A C 東海登山届けを!



専用携帯電話(担当 山田明美)

080-2632-3776

同好会紹介コーナー

古道塩の道同好会



「伊那街道を歩こう会」の看板

山中光子
宮田村から伊那市に入り、飯田線の駅を三つ越え、長い田んぼ道を歩き民家が多くなってきた辺りに、「伊那街道を歩こう会」とカラフルな看板が出てくる。これは伊那市荒井地区で「歴史の道 伊那街道を歩こう会」が平成21年に発表した「街なかいいとこ発見 歴史の道伊那街道」散策マップに基づき建てられた看板である。この看板と散策マップのおかげで、伊那市内はスムーズに旧道探しを行う事ができた。散策マップには、要所ごとの写真と裏面には写真一つ一つの説明、その上伊那街道だけではなく街道近隣の見どころ迄記載されている。ここまで立派な街道探しをし、立派な功績をあげても後継者がいないと言う理由で会は消滅し、辻々に建っている看板も場所によっては、形が残っているだけで、表面の文字はきれいに消え、全く何も読めない所もあった。

伊那市で最初に建っている看板の所から歩き始める。春日城跡に登り、眼下の景色を堪能し、旧道に入る。そこからは大火で一軒のみ類焼をまぬがれた、代々造り酒屋の伊那部宿旧井澤家が建ち、問屋道跡がある。暫く歩くと完全に観光化された伊那部宿跡だ。

そこから駅前を中心部に一度降り、町なかを歩き「伊那街道」と看板の出ている明十橋を渡り、狭い旧道に入り坂下の辻へ。山の上にある広いお寺を過ぎ、随分歴史があると思われ、町の中とはとても想像のつかない、広い小学校の前を通る。珍しく二宮金次郎の銅像を見かけた。そこから案内看板を見て、伊那北駅迄で終了。

「古道塩の道同好会」では、山の日に昨年は、古道塩の道である根羽村の柚路峠越えを皆で楽しんだ。今年は天候不順も気になり、塩の道から少し寄り道になる中川村を訪ねて、暑い中に風を感じながら陣馬形山に行く。南や中央アルプスは、雲がかかり全体が見えなかったが、それなりに堪能した。眼下には、中川村や塩の道で通る飯島町等の景色を充分堪能する事ができた。

今回の探索は、飯田線伊那北駅付近より歩き始める。伊那市もあと半分となった。

スケッチクラブ

村中征也

常滑やきもの散歩道

9月10日(日)名鉄特急を利用して、スケッチ旅行に行って来ました。石田代表になって最初の行事は、快晴の下8名が参加してくれました。

常滑は、瀬戸と共に陶器の産地として有名ですが、時代の波、廃業に追い込まれた窯元が多い。しかし「やきもの散歩道」は、使われなくなった設備を上手く活かした再生術、多くの観光客で溢れている。

私が勤務したのは空港開港前なので、まったく様変わり。一帯は坂が多く、軽自動車が出るとな狭い路地で、生活上は不便だろうと思うが、地元も観光客も、味わいある街並みを楽しんでいました。

スケッチの的は、レンガの煙突と土管と窯跡そして坂道。初秋の青空の下、素敵なお絵が出来上がりました。そして、日曜日で混んでいたが、鰻・団子・パン・ケーキ、そしてかき氷も楽しめました。



全員で煙突前にて

している会員のため、日曜日に開催。

絵の腕・経験は必要ありません。メンバーの意見で、訪れたい所を選定し、その土地の風情を楽しみ、メンバー同士の交流が重要な要素です。次回は、11月に琵琶湖東岸の長浜を予定しております。

気軽に声を掛けて下さい。

代表…石田好子

事務局…村中征也・武内喜代子

スケッチクラブは、春夏秋冬のスケッチ旅行と、2月末の作品展を主な行事としてしています。9月は、仕事を持つ

委員会報告

【ボランティア委員会】

ボランティア委員会では、9月9、10日の両日委員会メンバー、委員会支援者、SON愛知、視覚障がい者の方との合同親睦山行を行った。天気にも恵まれ、18人全員が継子岳に登って、無事下山した。コースは濁河温泉登山口からの往復コースで、豊かな森を堪能できた。

一日日は曇り空ではあったが、二日目に、継子岳登頂に合わせたかのように雲が切れ、北アルプスの峰々から、御岳・剣ヶ峰を見渡す事ができた時は、歓声があがった。

下山予定が少し遅れたが、参加の皆様にご協力いただき、全員安全に下山できたこと、御礼申し上げます。

ボランティア委員会では、ブラインド登山等公式行事の他に、委員会、支援者との親睦山行を、夏、秋、冬の3回毎年行っており、この秋は、鈴鹿の山を予定している。

秋の行事としては、「秋のブラインド登山」「親と子のふれあい登山教室」が、控えている
今後とも、ボランティア委員会よろしく願います。



継子岳にて
ボランティア委員長 前田隆久

【自然保護委員会】

「高山帯での侵入植物の特徴と保全対策は」をテーマとした2017年度日本山岳会自然保護の集まりに参加した。数ある分科会の中で西條先生の「2500m以上の外来種の特徴と保全対策について」の参加報告をしたい。

まず、高山帯の説明があった。典型的な高山帯として北海道の大雪山系、日高山脈、中部日

本では白山。飛騨山脈。乗鞍岳。御岳山。木曾山脈。赤石山脈。

特定の立地条件型高山帯として

- 1) 新たな火山活動が植生の分布や広がりに影響を受けた、駒ヶ岳、浅間山、富士山ほか。
- 2) 海洋性気候が影響し、低標高地に高山帯を形成した利尻、礼文、知床、渡島大島、(海岸線や里地では、耕作地(畑)や牧草地に侵入)
- 3) 地質地形要因が影響し、低標高地に高山帯が形成されたアポイ岳、早池峰山、至仏山等、
- 4) 多雪等が影響し、低標高地に森林限界が形成されるため偽高山帯の飯豊山地、朝日山地、出羽山地ほか。(亜高山帯の種が高山植生の中に出現しているが、これは偽高山帯故のことであろうか) 地域・場所等によっても対象となる種が異なるし、ソ、イソ等の進出に伴って運び込まれる種のあることも見逃せない。

場合によっては栽培植物(耐寒性の優れた)が意図せず、登山者によって持ち込まれる可能性もあるのではないかと。

高山帯分科会での前提条件として、

- ・人為的な手段で持ち込まれた植物のうち、野外で勝手に生育するようになった種群。
- ・意図的に持ち込まれたもの、非意図的のものも含めて考える事が大切である。

どういう所から、日本へ入って来たか。

北アメリカ、90種、中アメリカ25種、南アメリカ23種、ヨーロッパ168種、中国12種

シツメグサは、江戸時代の出島に入ってきた。ギヤマン(ガラス)の緩衝材としてタネを詰めた、だから詰め草ツメグサ・シツメグサと成った。旧帰化植物であるジャコイ・イカ タツソバ・中国、西アジア など。

西條先生のお話の中で、各支部の自然保護委員の皆さんが外来種についてどのような考え方を持っておられるか、どのような対策が考えられるのか、それを本部の自然保護委員会で集約していただきたいとあった。

2017年の全国集会に参加して、自然保護の分野は大変広いので全てを短期間に網羅するのはできないが、山岳環境に限定して、中期計画などで3年程度は一つのテーマについて調査・研究する方向を出すべきではないかと思った。

自然保護委員長 井藤恵美子

会 務 報 告

【2017年6月常務委員会】

日時：6月28日(水) 19時00分～20時40分

1. 支部長挨拶(高橋)：夏山フェスタは、今回も入場者が増えた。特に、18日の運動生理学の講演が好評だった。登山学校開設は、入学希望者が多く非常勤講師が不足しているためと、猿投山における遭難捜索の協力を要請する。

2. 委員会報告

①岳連(鎌倉)：穂高・岳沢遭難事故、剣岳・三の窓事故について報告。また東海学生連盟の若い支部員へ使わなくなった装備の寄贈を依頼。

②支部友委員会(尾上)：5月の山行報告、支部友ミーティング、今後の予定など議事録に沿って報告。5月の会員状況は、退会3名で現在50名。

③山行委員会(鈴木)：本部への登山報告が漏れているケースがあった。今後は本部への山行報告を徹底していく旨報告あり。

④亀の会(加藤)：6月8日山行時にルート間違いの有った旨の報告がなされた。亀の会は現在、退会1名・入会1名で変動なしとの事。猿投遭難者捜索に取り組む旨の報告がなされた。

⑤猿投の森づくり委員会(和田)：猿投の森づくりの本を7月出版する予定。夏に向けて勉強会‘緑陰講座’を実施の予定である旨報告。また、茶毒蛾やマダニの被害があり、要注意。

⑥支部報編集委員会(星)：沢山の原稿をもらい今回は支部報のページが増えた。学生向けに装備寄贈要請の文書も、次回10月の支部報に掲載をする予定。

⑦青年部(藤寄)：配布資料に基づき山行報告がなされた。クライミング合宿としては小川山で実施の計画で、8月に前穂北尾根を計画する旨報告があった。

⑧東海学生山岳連盟(藤寄)：定例会は7大学で実施した。討議している議題は9月の御在フェスについての報告がされた。

⑨登山教室委員会(天野)：朝日登山教室は7月・8月・9月をもって終了。中日登山教室は来年3月まで行い終了の予定である旨報告。

⑩登山学校(天野)：入校の申し込みが多く、現在の所94名。7月1日に開校式を行うが、山行実技は、7月は中止とし、8月からのスタートとすることにした旨報告。

⑪図書委員会(石田)：安藤会員の手作り本の紹介がなされた。現在75部配本中。古谷文庫・

小林よしまさ文庫が素晴らしいとの報告もなされた。

⑫海外登山(高橋)：日中韓学生登山とインドヒマラヤ登山計画の報告がされた。

⑬ボランティア委員会(前田)：秋のブラインド登山、第7回ひまわり山行、親と子の登山教室、委員会・支援者・協力団体の親睦山行、猿投山捜索の有り方について報告をした。

⑭写真展実行委員会(井上)：6月1日に実行委員会を開いた。写真山行については6月の御嶽開田高原の実施報告と7月蝶が岳・9月の計画の報告あり。

⑮技術向上委員会(片岡)：18日に名市大で山本氏による運動生理学の講演を実施。77名の参加があり盛況だった。

⑯東海ユース(山田)：議事録に沿って活動報告を行った。定例山行は全て女性の企画で(山メシ会)を企画した。

⑰遭難対策(山田)：山行届けについて、各委員会で行っている山行の届け出が本部に出していない。今後は必ず出すようにしてほしい報告がされた。猿投行方不明者の捜索については、6月14日に瀬戸警察と家族にヒアリングの実施。6月29日から7月9日までの11日間に猿投山、折平山の沢筋・尾根の急斜面を中心に第一次捜索を実施する旨の報告をした。

⑱山の日委員会(佐野)：山の日イベントについては御在所・茶臼山で予定。茶臼山では豊根村を中心に親子登山を実施する予定。

⑲森の音楽祭委員会(毛利)：猿投温泉から共催の申し出を戴いた。マイクロバス3台を出していただく方向で調整中。

出席：高橋、佐野、山田、尾上、市川、加藤、和田、星、石田、前田、天野、井上、箕浦、藤寄、毛利、鎌倉、澤井

【2017年7月常務委員会】

日時：7月26日(水) 19時00分～20時50分

1. 支部長挨拶(高橋)：天候不順が続く、北アルプスはまだ雪も多い。これから夏山シーズンだが、気をつけて山行を行って欲しい。登山学校は、課題はあるものの皆さんのご協力により順調。常勤講師に負担がかからぬよう、協力をお願いしたい。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷・尾上)：配布資料に基づき6月～7月の山行及び今後の支部友ミーティ

ングについて報告。登山学校生が入会した。
②猿投の森づくり委員会(小川):配布資料に基づき作業の実施状況、今後の予定につき報告。台風3号による幹線林道の補修については県に費用の補助を依頼中。緑化推進機構からの助成金について7月1日付けで90万円交付されることが決定した旨報告。

③青年部(藤寄欠席の為、鎌倉):沢登りを中心に活動中。海の日に親睦登山実施。8月には前穂北尾根へ9名にて山行予定の旨報告。現在50名程度で活動していて、うち40名程度が東海支部員で全国の支部の中でも多い方。

④登山教室委員会(天野):朝日は9月にて終了、中日については来年3月で終了予定。これにて各カルチャー教室への講師派遣事業は終了となる旨報告。

⑤登山学校運営委員会(天野):全体で100名以上が集まった。平均年齢は52~53歳で比較的若く前向きで真面目な方が多い印象。8月から各クラス講座開始。

⑥東海ユース(山田):配布資料に基づき7月の活動及び今後の計画について報告。山岳ファーストエイド実技講習に3名受講(受講費を会費より補助)。受講内容をユース会員へ展開予定。

⑦遭難対策委員会(山田):猿投の捜索について資料に基づき報告。結果は芳しくなかったが、暑い中、多くの方にご協力いただき支部の力を見た想い。再捜索を行うかはご家族と協議のうえ決定する旨報告。

⑧ボランティア委員会(前田):7月のひまわり山行は7/17に無事終了。ブライント登山、親子登山等、秋の行事に向け準備中である。

⑨写真展実行委員会(井上):7/6に委員会実施。パネルについては新規業者を探し、従来通りの費用で実施できそう。撮影山行、蝶ヶ岳は10名で実施。9月は潤沢にて実施予定の旨報告。

⑩山の日実行委員会(佐野):配布資料に基づき報告。次年度以降の実施時期や内容等については活動参加者の負担も考慮し、要検討。

⑪東海学生山岳連盟(澤井):7月の委員会は6大学、9名の参加。今後7月は富士登山支援、8月は日中韓交流登山に5名、大学生夏山リーダー講座に2名参加予定。御在フェス準備中。

⑫その他(高橋):支部山岳カレンダーの製作については、写真展の作品から選定する方向で再検討。写真展委員会の協力を得て今年10月完成を目指す。

出席:高橋、佐野、山田、片岡、尾上、市川、

加藤、和田、前田、星、天野、小川、井上、箕浦、毛利、金谷、鎌倉、澤井、石田

ル ー ム 日 誌

—・— 6月 —・—

- 1(木) 写真展委員会
- 2(金) 古道塩の道
- 5(月) 支部友委員会
- 6(火) 県岳連
- 7(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 8(木) 自然保護委員会
- 12(月) 登山教室委員会
- 13(火) 支部友ミーティング
- 15(木) 東海学生連盟
- 16(金) 森の音楽祭
- 19(月) 図書委員会・読図会
- 20(火) ボランティア委員会
- 21(水) 山行委員会/総務委員会/正副支部長会議
- 22(木) 技術向上委員会
- 27(火) 猿投の森運営委員会
- 28(水) 常務委員会
- 30(金) 支部報発送

—・— 7月 —・—

- 1(土) 登山学校/東海ユース
- 3(月) 支部友委員会
- 4(火) 県岳連
- 5(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 6(木) 写真展委員会
- 7(金) 古道塩の道
- 10(月) 登山教室委員会
- 13(木) 自然保護委員会
- 18(火) ボランティア委員会
- 19(水) 山行委員会/総務委員会/正副支部長会議
- 20(木) 東海学生連盟
- 24(月) 図書委員会・読図会
- 25(火) 猿投の森運営委員会
- 26(水) 常務委員会
- 27(木) 技術向上委員会
- 28(金) 亀の会

会員異動

入会: 圓谷伸希(16207) 坂口弘記(16230)
藤田崇宏(15906)

退会: 西岡總太郎(13252) 中井正則(14293)
伊藤正俊(8359)

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

△ 東海支部新年会のお知らせ△

日 時：平成30年1月20日(土)
午後4時～7時15分

場 所：ウイルあいち
名古屋市東区上堅杉町1番地
地下鉄「市役所」駅より東へ徒歩10分
名鉄瀬戸線「東大手」駅より徒歩8分
市バス「市政資料館南」より徒歩5分

会 費 5000円程度(懇親会参加者のみ)

◎本年は日本山岳協会会長 八木原 圀明氏の講演を予定しています。

◎詳細は別途11月末ごろに往復はがきでご案内しますので出欠のご返事を下さい。

新年会には、支部友、青年部、東海学生山岳連盟、東海ユースの方々も参加できます。

△日本山岳会年次晩餐会のお知らせ△

本年度の年次晩餐会は12月2日(土)に東京新宿の京王プラザホテルにおいて行われます。会員の方には本部事務局から案内状が来ますので各自お申し込みください。多数の方のご参加をお願いいたします。

総務委員長 毛利邦男

【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第9回森の音楽祭2017が10月28日(土) 10:30～15:30 猿投の森特設会場(愛知県有林やまじの森)にて開催されます。参加費500円。

参加ご希望の方は名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅までお越しください。駅から森の入口まではシャトルバスが運行します。(朝7時30分～8時30分)

第1部：アルプホルンの演奏と東海学園交響楽団によるドボルザーク交響曲第8番の演奏。

参加者全員による「雪山讃歌」の合唱。

第2部は森の観察会と猿投山山頂を目指したハイキングが予定されていますが、参加申込受付は終了しています。

申込方法：ハガキ・ファックス(東海支部森の音楽祭実行委員会 宛)又はe-mail(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

問合せ先：毛利邦男

森の音楽祭際実行委員会 毛利邦男

【写真展実行委員会からのお知らせ】

下記のような写真撮影山行を企画しています。是非、参加をご検討ください。

写真撮影山行では、登攀・歩行を少なくし、写真を撮影できる自由時間を多くした、山の景色や花などの撮影対象が多い場所への山行を計画しています。カメラはコンパクトデジカメ、三脚無しでもOKです。

① 雪の上高地・大正池

- ・月日：12月29日～30日 1泊
- ・交通手段：自家用車相乗り
- ・宿泊：大正池ホテル
- ・撮影対象：雪の上高地、大正池、冠雪した穂高連峰、樹氷など
- ・申込締切：11月末
- ・大正池ホテルは特別営業なので、冬にはこの時しか宿泊出来ません。

② 紅葉の山などへの撮影山行

- ・上記以外に10月、11月に紅葉の山などへの撮影山行を企画した場合には、「東海支部だより」でお知らせします。
- ・撮影山行したい場所などの希望があれば写真展実行委員までお知らせください。

*東海支部のHPに詳細が掲載してあります。メニューで「写真展実行委員会」をクリックしてください。

*月日や行程、移動方法は参加希望者との相談で変更する可能性があります。

*参加希望、問い合わせは、井上 (090-6590-6669、shasin@jactokai.net) または、写真展実行委員までご連絡ください。

写真展実行委員会 井上 寛之

編集後記

編集作業中に開催される御在所フェスティバルは、今年で8回目を迎える。全てを取り仕切る青年部と東海学生連盟は、高橋支部長の指導により、経験を積み組織活動も向上してきた。次号で詳細を報告する。会員諸氏にお願いしたい。青年部員のために、使わない登山道具があれば、ぜひ東海支部ルームに届けていただきたい。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



世界の山旅を手がけて48年

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千禧ビル3階) www.alpine-tour.com



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック
名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422

(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に
そろうモンベルストアへ。



- Outlet 名古屋店 | 愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
- Outlet 長久手店 | 愛知県長久手市片平1-901
- Outlet 名古屋みなと店 | 愛知県名古屋港区品川町2-1-6 イオンモール名古屋みなと 3階
- 各務原店 | 岐阜県各務原市那加堂場町3-8 イオンモール各務原 2階
- Outlet 長島店 | 三重県桑名市長島町浦安368 三井アウトレットパークジャストリーム長島 2階
- 鈴鹿店 | 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
- 新静岡店 | 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階
- ららぽーと磐田店 | 静岡県磐田市高見丘1200 三井ショッピングパークららぽーと磐田 1階

Outlet アイコンのある店舗では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】 0088-22-0031 / TEL. 06-6536-5740
モンベル・カスタマー・サービス ※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
(地下鉄・久屋大通駅から徒歩から2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: <http://www.nygs-office.com/>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657
E-mail: ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆



一般社団法人 日本自動車運行管理協会
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長栄区猪子石3丁目113番地
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031
<http://www.work-system.co.jp/>